

目次

| | |
|---|------------------------------------|
| 1. 巻頭随筆：新統計法に基づく「基本的計画」における統計データの二次利用の促進と「情報倫理規定」の必要性 ……廣松 毅… 2 | 5. シリーズ：統計学の現状と今後 |
| 2. 2009年度統計関連学会連合大会のお知らせ (第一報) -企画セッションの公募- ……水田正弘… 3 | 5.1 政策評価における統計学の役割 ……吉田あつし… 7 |
| 2.1 2009年度統計関連学会連合大会について… 3 | 5.2 好奇心と不均一性…和泉志津恵… 8 |
| 2.2 企画セッションの公募… 4 | 6. 日本経済学会連合からのお知らせ ……西郷 浩, 坂野慎哉…10 |
| 2.3 その他の準備状況のご報告… 4 | 7. 学会誌の機関購読等に関するお願い ……11 |
| 3. 日本統計学会春季集会2009開催案内 ……岩崎 学, 江口真透, 田村義保… 5 | 8. 評議員会議事録 ……11 |
| 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について ……岩崎 学… 6 | 9. 理事会議事録 ……13 |
| | 10. 研究集会案内 ……14 |
| | 11. 新刊紹介 ……15 |
| | 12. 学会事務局から ……15 |
| | 13. 投稿のお願い ……16 |

会員の皆様へのお知らせ

1. 日本統計学会会長選挙開票報告

本学会細則第4条による2009・2010年会長選挙の投票が行なわれ、12月12日に日本統計学会事務局(財)統計情報研究開発センター内)において開票した結果、美添泰人氏が当選しました。

2009・2010年会長選挙管理委員 西埜晴久・中西寛子

会長の挨拶は次の会報に掲載される予定です。

2. 日本統計学会春季集会2009開催案内が同封されています。

3. 事務局移転のお知らせ

学会事務を委託している財団法人統計情報研究開発センターの移転に伴い、日本統計学会事務局の住所、電話・FAX番号が変更になりましたのでご案内申し上げます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(財)統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
TEL&FAX 03-3234-7738

1. 巻頭随筆：新統計法*¹に基づく「基本的計画」における統計データの二次利用の促進と「情報倫理規定」の必要性

廣松 毅（東京大学大学院総合文化研究科）

平成20年12月22日に開催された内閣府統計委員会*²において、総務大臣からの諮問第4号「公的統計の整備に関する基本的な計画について（以下、「基本計画」と略）」に対する答申が竹内啓会長から総務大臣に手交された。そして、平成20年度末までには閣議決定される予定である。これは新統計法第4条の規定に基づき、統計委員会がほぼ1年をかけて審議してきたものである。

この答申は、「はじめに」のほか本文4章+別表（全体で72ページ）からなり、その全体の構成は以下のとおりである。

はじめに

第1 公的統計の整備に関する施策についての基本的な方針

第2 公的統計の整備に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

第3 公的統計の整備を推進するために必要な事項

第4 基本計画の推進・評価等別表

答申の全文およびその内容を要約した「答申のポイント」は統計委員会のサイトに掲載されている。^{*3}なお、このサイトには統計制度改革の経緯および関係法令なども掲載されており、便利である。

基本計画は、「おおむね10年後までを見通した公的統計の目指すべき姿を視野に入れつつ、今後5年間程度の期間における公的統計の整備に関する基本的な考え方、取り組むべき方向性や必要な措置等について具体的に示すことにより、その推進を図ることを目的」としている。近年、行政の多くの分野で、基本法を制定した上でそれに基づいて基本計画を逐次策定しながら、実行していくという手法が用いられている。たとえば、科学技

術や環境の分野ではそのような手法が先行しており、今回、統計行政の分野でもそれを導入したということである。その意味で、個人的には、新統計法のことを統計基本法と呼びたいと考えている。

ここで答申のすべての内容を解説することは不可能なので、おそらく会員の方々がかつとも関心を持っておられるであろう統計データの有効利用、すなわち二次利用の促進についてのみふれておきたい（これは第4章4節に当たる）。具体的に、この節では（1）オーダーメイド集計（第34条）、匿名データ（第35条および36条）の作成、（2）統計データ・アーカイブの整備について記述している。さらに、別表ではオンサイト利用（第32条および33条）にもふれている。

これらについては、多くの研究者また学会から早期実現の要望が出されていたものであり、それに応えるためのものである。そして、これまで度々指摘されてきた「国際的な遅れ」を解消するためのものである。そのための準備は、新統計法を部分的に施行する形で、答申の審議と同時並行的に行われてきており、平成21年の4月の一部提供を目指している。そのため、答申の公表と同時に、統計委員会の下にある匿名データ部会に対して、総務省統計局が行っている全国消費実態調査、社会生活基本調査、就業構造基本調査、住宅・土地統計調査の4調査に係る匿名データの作成についての諮問に関する審議が付議された。これは、これまで一橋大学経済研究所・社会科学統計情報研究センターを通じて行われてきた4調査の匿名データの試行的提供の経験を踏まえて、それを公的な形で行おうとするものである。これから徐々に、統計局の他の調査に限らず、他の府省庁が実施している調査にも、このような動きが広がって

いくと期待している。

ただし、一言お断りしておかなければならないのは、このように統計データの二次利用に関して法的整備が終わり、計画が立てられ、準備が進んでいるとはいえ、4月以降ただちにすべてが利用可能になるという訳ではないということである。なぜならば、統計リソース（予算・人員）の厳しい制約があり、わが国では公的な形での提供は初めてのことであることから、そのためにやはり最初は慎重にならざるを得ないからである。特に、前者の統計リソースの制約は答申の中でも大変大きな問題として取り上げられている。統計データの二次利用について、いわば「小さく産んで大きく育てる」という方針で進めていくことをご理解いただければと考えている。

もちろん時間が経ち、経験を積み重ねていけば、ユーザーにとってより使いやすく広範囲の統計データの提供が可能になっていくであろう。そのためには、単に提供側の努力だけではなくて、ユーザー側の協力が必要である。お互いが二次利用のあり方をより良いものにするために協力していく必要がある。その意味で、会員の皆さんのご協力を是非ともお願いしたい。特に、せっかくこのような新しい利用形態が実現しつつあるときに、万が一ユーザー側の意識不足、不注意などによって調査対象者が特定化され、その情報が流出するようなことが起きると、現在のように個人情報保護の意識が高まっている中では、致命的な事態であり、完全に門が閉ざされてしまう恐れがある。

そのようなことが決して起こらないように、統計データの二次利用を希望される会員一人一人が「情報倫理」について意識を高くもつとともに、ルールを守っていく必要がある。そして、日本統計学会が率先してそのようなルール、すなわち「情報倫理規定」の取り決めにただちに取り組むとともに、広く関連学会にもその必要性和順守を説く努力をすることを、強く希望したい。

*¹ 平成19年5月に、「公的機関が作成する統計が、より体系的・効率的に整備され、国民・事業者の方々にもより使いやすいものとなるよう、」現在の統計法（昭和22年施行）が大幅に改正され公布された。平成21年4月に全面施行の予定である。それに伴い統計調整報告法（昭和27年施行）は廃止される。そのキャッチフレーズは「『行政のための統計』から『社会の情報基盤としての統計へ』」である。

新統計法は①公的統計の体系的・計画的整備の推進、②統計データの有効利用の促進、③統計調査の対象者の秘密保護の強化、④統計整備の「司令塔」機能の強化を四本柱としている。

*² 新統計法を部分的に施行（第44条）する形で、公的統計整備の「司令塔」の役割を果たす中核的な組織として、内閣府統計委員会が平成19年10月1日に設置された。この委員会は、専門的かつ中立公正な審議機関として、13名以内の学識経験者によって構成されることになっている。

*³ <http://www5.cao.go.jp/statistics/index.html>

2. 2009年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報） －企画セッションの公募－

連合大会プログラム委員長 水田正弘（北海道大学）

2.1 2009年度統計関連学会連合大会について

2009年度統計関連学会連合大会は、統計関連学会連合に参加している全ての学会、すなわち応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学

会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の共催により、2009年9月6日（日）から9日（水）まで同志社大学で開催いたします。

初日の9月6日は、今出川キャンパス（http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html）で市民

講演会およびチュートリアルセッションを実施します。9月7日から9日までは、会場を京田辺キャンパス (http://www.doshisha.ac.jp/access/tanabe_access.html) に移して、コンペティションや企画セッションなどの一般講演、ソフトウェアセッションなどを実施します。なお、連合大会のWebページ<http://www.jfssa.jp/taikai/>に関連情報が随時掲載されます。

2.2 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会では、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しております。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

特に企画セッションに関しましては、今回もこれまでどおり公募することになりました。広い意味で統計学の発展に寄与できるような企画のご提案を歓迎いたします。応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください。企画セッションの申込みに際しては、セッションのテーマとねらい、オーガナイザーの氏名・所属・連絡先、予定講演者と演題名を水田宛てメールにてお知らせください。企画セッション1件あたりの時間は120分を予定しております。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切り

2009年2月20日(金)

企画セッション応募先

連合大会プログラム委員長

水田正弘(北海道大学)

mizuta@iic.hokudai.ac.jp

2.3 その他の準備状況のご報告

2.3.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項はつぎの通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で7回目を迎えます。参加資格は2009年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者です。所属(大学院生、教員、社会人)は問いません。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申し込み時点で、コンペティション対象者は、共催6学会のいずれかの会員でなければなりません(ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます)。前回(慶応大学大会)と同様、前審査は行わず、申し込んだ有資格者全員がコンペティションに参加して頂けます。審査は、当日の口頭発表に対して、数名の審査員と参加者の一般審査との総合評価で行う予定です。

2.3.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月6日にチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催すべく準備中です。多くの市民や研究者の方々にとって有益な内容となるようにテーマや講演者をプログラム委員会で検討中です。また、7日以降にはソフトウェアセッションを開催予定です。統計に関係したソフトウェアに触れることができるよい機会にしたいと考えております。

2.3.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や参加の事前申込み、報告集原稿提出は基本的にホームページ上で行うこととします。現在、委託業者と詳細を詰めているところですが、それぞれの締切りは、一般講演申込の締め切りを5月下旬とし、それ以降、報告集原稿提出および参加事前申込の締め切りを設定させていただく予定です。確定した期日などは具体的な企画とともに

に2009年4月ごろ第二報でお知らせいたします。
また、従来、実施していたCD-ROMの配付に代え、

同様な内容をWebで公開することを予定しております。

3. 日本統計学会春季集会2009開催案内

岩崎 学 (日本統計学会理事長)

江口真透・田村義保 (春季集会担当理事)

下記の要領で第3回日本統計学会春季集会を開催します。会場の統計数理研究所は2009年度中に立川への移転が計画されていて、今回の春季集会在日本統計学会としては広尾の地で開催する最後のイベントになります。会員の皆様の多数のご参加をお待ちしています。

プレナリーセッションは招待講演のみですが、ポスターセッションでのポスター発表を募集します。なお、ポスターセッションでの優れた発表に対して実行委員会から「優秀発表賞」の授賞を考えています。詳細は学会ホームページをご覧ください。また、懇親会も予定していますので、多数ご参加下さい。

なお、翌3月7日(土)に同じく統計数理研究所にて統計教育のシンポジウムが予定されています。詳細は学会ホームページをご覧ください、こちらのほうもご参加いただければと思います。

日 時：2009年3月6日(金)

10:00~17:30+懇親会

場 所：統計数理研究所(東京都港区南麻布4-6-7)

参加費：無料(懇親会は有料)

プログラム

(詳細は学会ホームページをご覧ください)

10:00-10:10

開会：岩崎 学 (日本統計学会理事長)

挨拶：美添泰人 (日本統計学会会長)

10:10-11:40

セッション1：統計教育の質保証と統計学会の役割

オーガナイザー：渡辺美智子 (東洋大学)

座長：岩崎 学 (成蹊大学)

講演：Prof. Neville Davies (The Royal Statistical Society, Centre for Statistical Education)

指定討論：

田中勝人 (一橋大学)

江口真透 (統計数理研究所)

星 千枝 (ベネッセ教育研究開発センター)

11:40-12:00

ポスター発表者のショート・トーク

12:00-13:00

昼休み及びポスターセッション(統計数理研究所会議室)

13:00-15:00

セッション2：セミ・ノンパラメトリック統計解析

オーガナイザー&座長：西山慶彦 (京都大学)

講演(予定)：

人見光太郎 (京都工芸繊維大学)

金谷 信 (ケンブリッジ大学)

寒河江雅彦 (岐阜大学)

西山慶彦 (京都大学)

15:00-15:30

ポスターセッション(統計数理研究所会議室)

15:30-17:30

セッション3：ブートストラップ

オーガナイザー&座長：

下平英寿 (東京工業大学)

講演(予定)：

汪 金芳 (千葉大学)

前園宜彦 (九州大学)

下平英寿 (東京工業大学)

植木優夫 (統計数理研究所)

笛田 薫 (岡山大学)

17:30

閉会：美添泰人 (日本統計学会会長)

ポスターセッションについて：応募の方法は会員メーリングリスト及び学会ホームページにてお知らせします。

17:45-19:30

懇親会

場所：統計数理研究所会議室

参加申し込みのアドレスは会員メーリングリスト及び学会ホームページにてお知らせします。

4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について

岩崎 学 (日本統計学会理事長)

「第3回日本統計学会研究業績賞」および「第2回日本統計学会出版賞」の受賞候補者推薦を下記により募集いたします。推薦書の書式は全て学会ホームページからダウンロード可能です。不明な点は学会事務担当者にお問い合わせください。上記2賞の推薦締切りは2009年4月24日(金)とさせていただきます。

日本統計学会賞、統計活動賞、統計教育賞の3賞につきましては6月上旬を締切りとし、4月下旬発行の会報で改めて推薦募集のご案内を申し上げます。なお、これらの賞に関しましても推薦書の書式は既に公開されておりますので、早期の推薦を妨げるものではありません。

推薦書の宛先は下記の通りです。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。

[宛先・照会先]

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

財団法人 統計情報研究開発センター内

日本統計学会係

Tel & Fax: 03-3234-7738

E-mail: shom@jss.gr.jp

[対象範囲]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

[推薦方法]

各賞受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、

それぞれの賞の選考委員会が実施する。

受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。

[発表]

各選考委員会は、選考結果を日本統計学会評議員会及び総会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

なお、研究業績賞と出版賞の概要と規程を以下にご紹介します。

日本統計学会研究業績賞

[名称]

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

過去3年程度に日本統計学会誌あるいは内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文を審査対象とする。受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

受賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員および学会誌編集委員会からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集

担当理事2名、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。

- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[名称]

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書(研究、教育あるいは啓蒙)を出版した著者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

(1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する研究、教育あるいは啓蒙上の図書。

(2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

受賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員および学会誌編集委員会からの推薦を受けて選考する。選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

5. シリーズ：統計学の現状と今後

5.1 政策評価における統計学の役割

吉田あつし (筑波大学システム情報工学研究科)

経済学における統計利用分野として、ここ20年ほど金融工学分野が着目されてきたが、その一方で、政策評価における統計学の利用も盛んにおこなわれるようになってきた。マートン、ショールズが金融工学でノーベル経済学賞を受賞した3年後の2000年に、ヘックマンとマクファデンが授賞したが、その理由は、「ミクロ計量経済学において、個人と家計の消費行動を統計的に分析する理論と手法の構築を称えて」であった。彼らの開発した手法は、労働政策や交通政策を含む非常に幅広い分野の政策評価で用いられている。

政策評価が日本でも重要になってきたのは、2001年に「行政機関が行う政策の評価に関する法律」(行政評価法)が制定され、各省庁が行う事業の政策評価が必要になってきたからである。既

存の事業を継続する際にも、新しい事業を行うときにも、政策評価が義務付けられた。

政策評価の中心になるのは、費用便益分析である。費用便益分析とは、ある政策に1億円のコストをかけた時に、何億円の社会的便益が発生するかを評価する方法だ。費用便益比は、政策の優先順位の指標にされる。

しかし問題は、費用の計測は簡単であるが、社会的便益の計測が非常に難しい点だ。従来からも、費用便益分析が行われてきたが、比較的単純な方法が用いられ、結果を恣意的に操作(マニピュレーション)しているのではないかと疑われてきた。行政評価法の導入後は、当然、従来の方法は批判にさらされた。そこで、便益を正確に測るために、統計学者や経済学者が評価方法を開発することになった。

行政評価に関して、どんな分野で経済学者が貢献してきたかという点、労働や医療、教育分野で

ある。もっとあるはずであるが、筆者の研究分野に近く比較的筆者の知見が及ぶのはこれらの分野だ。

医療分野で有名なのは、ランド研究所が20数年ほど前に行った、医療保険実験である。これは、ランダムにサンプリングしてきた人たちを、あるグループは自己負担率20%、他のグループは50%というように、自己負担比率によっていくつかのグループにわけ、自己負担率の違いが、医療サービスの需要にどの程度影響を与えるかを検証した。この実験は、アメリカに社会保険導入を導入する場合、自己負担率はどの程度が適切かを検討するために行われた。自己負担率の設定によって、社会的な便益と費用とが決まってくるからだ。

ランド実験では、自己負担率を被験者にランダムに割り当てることができたが、その他のいろいろな社会実験では、参加者を募り、応募者の中から利益を与える「処置群」を「くじ」で選択する方法がとられている。

たとえば、教育分野では、教育バウチャーの実験を行う際に、このような方法がとられている。教育バウチャーとは、個人の授業料を政府が肩代わりするという切符であり、低所得者により質の高い教育を受けさせる方法として提案された。教育バウチャー実験は、特に中進国で行われたのだが、低所得者が私立教育を受けることを可能にするためであった。というのも、多くの中進国では、公立学校の教師の給料が低いために、公立学校には優秀な教師が集まらず、その結果、教育の質も私立学校に比べて低かったからである。

政策評価の観点からわれわれが知りたいのは、教育バウチャーをもらうと、いい教育を受けられた結果、学力が向上するかだ。向上した学力から社会的便益をどのように求めるかは別の話であるが、学力の向上が政策の目標である。われわれが知りたい学力の向上とは、同じ人が、教育バウチャーを受け取った場合と受け取らなかった場合では、どの程度学力の差が生じるかだ（「平均処置効果」の推定）。

しかし、実際には、一人の人はどちらか一つの

状態しかとりえない。したがって、教育バウチャーに応募しなかった人も含めて、教育バウチャーのない人たちが、仮に教育バウチャーがあったとしたときの学力向上、および、教育バウチャーを受けとった人たちが、仮に受け取らなかったとしたときの学力と比較したときの学力向上、の二つのケースは観測できない。それゆえ、「平均処置効果」を推定するには、一方は処置を受け、他方は処置を受けなかったような、あたかも同一人であるような二人を擬制する必要がある。どんな条件のもとで、このような擬制が合理化できるかが議論されてきたが、難しい問題を多く含む。そこで、教育バウチャーを受けとった人だけに着目し、仮に受け取らなかったとしたときの学力と比較したときの学力向上部分（「処置を受けた者の平均処置効果」）だけを計測する方法も提案されている。

政策評価が必要となる分野は、今後も広がっていき、様々な社会実験が行われるであろう。その結果によって、予算配分が決定されるのであるから、結果の評価は非常に重要だ。統計学者に期待されるものも、その分大きくなってきている。

5.2 「好奇心と不均一性」

和泉志津恵（大分大学工学部）

2008年12月に、ノーベル物理学賞・化学賞が日本人科学者に授与されたニュースが全世界を走る。国内で長年培われた地道な研究活動が、このように世界に評価されつつあるのは、とても喜ばしいことだ。古来から新しいものを受け入れるのが得意な日本人は、手元で念入りに検証したものに、改良を加えてオリジナルティ豊かなものとして、世界へ発信するのも上手である。このような科学の発展の基となるのは、子供のころに芽生えた好奇心ではないだろうか。言葉を覚えたばかりの幼児は、「なぜ」、「どうして」という疑問詞を連発し、大人を困惑させる。このころが、統計学を含む科学一般に興味を持ち始める出発点のような気がする。このような好奇心をそのまま持ち続

けて欲しいものだが、大学生の現状を見ると、残念ながらそうではないような印象を受ける。

今年発表された新しい学習指導要領には、小・中学校の段階において、統計活用力を育成するために統計教育の内容の充実が図られるカリキュラムが含まれる。統計教育の教材提供のひとつとして、日本版「センサス@スクール」プロジェクトが統計教育委員会で取り組まれている。これは、国際的な生徒参加型データソースを活用して学習することを目的とし、英国、カナダ、ニュージーランド、南アフリカ、オーストラリアで展開された国際的な「センサス@スクール」プロジェクトを日本で応用するものである。この国内プロジェクトに参加し、ニュージーランドの小・中学校の生徒と教師向けの教材の翻訳作業を研究室のゼミ生と一緒に進めている。教材には、足の大きさや携帯メールの回数などの身近な題材によって、生徒の好奇心をかりたて統計的思考を刺激する内容が含まれる。ゼミ生も、箱ひげ図などの図的要約を用いた指導方法に興味を示し、大学生版の「センサス@スクール」の実現も可能そうだ。今後、よび起した統計科学への好奇心を生徒たちに持ち続けさせる学習者支援方法の充実も大切だろう。

さて、統計学への私自身の好奇心が芽生えたのは、広島大学理学部数学科の学生時代に遡る。藤越康祝先生と谷口正信先生の卒業研究ゼミでは、Seberの「Linear Regression Analysis」やRaoの「Linear Statistical Inference and Its Application, 2nd Ed.」の輪講をとおして、数理統計学への好奇心がわきあがった。これが生物統計学への好奇心に展開していったのは、広島の放射線影響研究所での勤務において、原爆被爆者とその子供たちの長年蓄積された膨大なデータとの出会いがきっかけとなった。死亡やがん罹患の追跡調査、喫煙や職業などの生活習慣や社会生活の郵便調査、血圧やコレステロールなどの定期的な健康調査、染色体や遺伝子などの遺伝調査のサンプリングフレームやデータの特徴を理解するところから、統計的データ解析が始まる。ドナルド・ピアス先生と大竹正徳先生のリーダーシップの下で、研究デザイン

の改良を含めた生物統計的手法の開発は進行していった。臨床、放射線生物学、遺伝学、分子疫学、社会疫学を専門とする国内外の共同研究者との打ち合わせでは、知らない異分野の専門用語（日本語、英語、フランス語、ドイツ語）が飛び交うが、互いの研究分野を尊重しあい、各専門の枠を超えて議論を交わし、信頼を築き人間関係を広げる。このような複合領域の共同研究は、生物統計学への好奇心をすくすくと育てていった。

この活動の中で、集団の不均一性に関する統計的手法に、特に興味を持つ。きっかけは、広島大学大学院医学系研究科博士課程においてご指導いただいた大瀧慈先生との出会いである。推定された曝露量の不均一性、曝露の影響の不均一性、背景因子の不均一性のために、リスク要因を同程度に共有する個体が、常に同じ反応をするとは限らない。その結果、がんなどの疾病が発生するグループとそうでないグループが起こりえる、すなわち、個体差の存在である。まずは、新たな臨床検査方法において一定の確立した基準（gold standard）がない場合に、抗原抗体反応のような二値反応に対する誤分類確率を、繰り返しのある測定値からランダム効果モデルを用いて推定する手法を開発し、血清データに応用した [1]。次に、細胞のがん化する過程を確率的に表現した多段階発がん機構数理モデルを拡張し、母集団のハザードの不均一性をランダム効果としたガンマ揺らぎモデルを提案した [2]。さらに、曝露や背景因子の不均一性をハザード関数に取り入れ、曝露は仮想的に老化を早めるとした新たな発がん数理モデルを開発し、個体差の存在の可能性をがんの罹患率データ解析から示唆した [3]。これらの論文には、放射線生物学や分子疫学の研究者からのフィードバックが幾つも舞い込んだ。

新たなものが生み出される手がかりは、異なるものを受け入れることから始まることがある。異分野の共同研究者との交流からヒントを見つけ、不均一性を科学する研究が展開した。独創力とコミュニケーション能力の豊かな共同研究者と指導者に恵まれたと、しみじみ思う。「真実の追究は、

人間関係が成り立つ上に築かれる」かもしれない。将来の統計学の発展には、個体差のある好奇心を育てる環境も大切ではないだろうか。

最後になりましたが、この機会を与えてくださった坂本亘旧広報担当理事と福地純一郎広報担当理事に感謝申し上げます。

- [1] Inference about misclassification probabilities from repeated binary responses. *Biometrics* 56:

706-711, 2000.

- [2] Aspects of the Armitage-Doll gamma frailty model for cancer incidence data. *Environmetrics* 15: 209-218, 2004.

- [3] Incorporation of inter-individual heterogeneity into the multi-stage carcinogenesis model: approach to the analysis of cancer incidence data. *Biometrical Journal* 49: 539-550, 2007.

6. 日本経済学会連合からのお知らせ

坂野慎哉, 西郷 浩 (日本経済学会連合評議員)

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では、例年通り平成21年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します。応募者多数の場合、日本経済学会連合理事会が対象者を選考します。また、1回の募集につき1学会1件の応募が原則ですので、希望者が複数の場合には理事会で選考いたします。募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください。

日本経済学会連合 国際会議派遣補助

(a) 目的:

加盟学会の会員が、平成21年4月1日から平成22年3月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合、往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する。

(b) 補助額:

原則として開催地により6段階(15万円から40万円まで5万円刻み)とする。

(c) 募集時期:

第1回:平成21年2月10日

(日本統計学会事務局宛の締め切り)

第2回:平成21年5月末日

(日本統計学会事務局宛の締め切り)

注)第2回は、第1回選考の結果、余裕定員があるときにのみ応募する。

(d) 応募の条件:

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること、申請学会よりの派遣者が同会議での報告者または討論者であること。被派遣者は、過去5年間、日本学術会議から派遣費を受けていないこと、また、当年度において、日本学術会議をはじめ他の期間から補助を受けていないこと。申請は、1回の募集につき1学会1件に限る。

(e) 備考:

申請には、当該国際会議に関するインフォメーション(レター、プログラムなど)を添付すること。また、補助を受けた被派遣者は、帰国後1ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること。この補助を受けて国際会議に出席した場合には、経済学会連合評議員会(10月ごろ)にて30分程度の報告を依頼することがある。

7. 学会誌の機関購読等に関するお願い

事務局では日本統計学会誌の定期購読のお取り扱いをしております。個人、機関等を問わず1年分（欧文誌2号，和文誌2号）が9,000円です。公費による購入にも対応いたしますので，これを

機会に統計関係の学科・教室等での機関購読を是非ご検討下さい。またバックナンバーについてのご相談にも応じます。詳細は学会事務局へご照会下さい。

8. 評議員会議事録

2008・2009年度 第1回評議員会議事録

日時：2008年9月8日（月）18：30～19：50
場所：慶應義塾大学 矢上キャンパス 創想館217号室

出席者：北川源四郎会長，田中勝人理事長（2006・2007年度理事会），伊藤彰彦，稲葉弘道，今井英幸，岩崎学，牛澤賢二，狩野裕，川崎能典，菊地進，久保川達也，倉田博史，栗木哲，西郷浩，杉山高一，瀬尾隆，高橋一，竹村彰通，田村義保，椿広計，富澤貞男，中野純司，濱砂敬郎，藤井良宜，藤越康祝，舟岡史雄，水田正弘，森博美，矢島美寛，安田聖，山下智志，美添泰人，若木宏文，渡辺美智子（以上34名）。（委任状5通。）

冒頭，北川会長より定足数確認，開会宣言および挨拶があった。

報告事項：

<議題1>前評議員会からの引き継ぎ事項

北川会長より，前日（9月7日）に開催された2006・2007年度第5回評議員会での議題に関して一通り説明があったのち，今期への申し送りとなった事項5点について次の通り説明があった。

●2009年度大会について：

2009年度も統計関連学会連合大会（同志社大学で2009年9月6日～9日に開催予定）に参加することを評議員会として決定，確認した。

●2010年度以降の大会について：

統計関連学会連合では，早急に2010年度の開催校選定にあたる必要があるため，日本統計学会としても早期に参加を確認しておくことが必要である。また，今後の参加の意思決定の方法についても検討しておいた方がよい。

●未納会員の取り扱い：

会費未納者の取り扱いについては，次期理事会で早急に対応することを評議員会でも後ほど審議事項の段でご了承頂きたい。

●学会賞の推薦方法について：

学会賞の推薦を現状より活性化することが望ましい。特に出版賞については，推薦があった少数の図書だけに注目するのではなく，学会への献本や掲載書評等に基づきリストを作成し参考にするなどの工夫が必要である。

●旧事務局内の資料について：

旧事務局に残されている貴重な資料について，2009年秋に統計数理研究所が立川移転後も新庁舎内に保存場所を確保してもらうよう，評議員会として統計数理研究所に申し入れてほしい，という要望があった。

会長からの報告のあと，春季集会を2度開催したの総括あるいは今後の展望等に関する議論や如何に，との質問があった。北川会長からは，過去2年の開催形態決定の経緯に関する説明があり，その上で今後どうするかは新理事会の判断であ

る、との返答があった。

＜議題2＞大学における統計教育・研究実態調査の報告

竹村彰通評議員より、席上配布の「大学における統計教育・研究実態調査 報告書」および「数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性」の2冊の資料に基づき、その内容の説明と学術会議の現状に関する報告があった。次いで、日本学術会議幹事会での説明を行った北川会長から若干の補足説明があった。

＜議題3＞その他

川崎能典評議員（前庶務会計担当理事）より、評議員改選に伴いメーリングリストを更新するので、事務局が用意した郵送先住所とメールアドレスのリスト（回覧）に必要があれば加筆訂正の上お戻しい頂きたいとの依頼があった。

審議事項：

＜議題4＞理事長の選出

会長の推薦により倉田博史、山下智志の両氏を選挙管理委員に選出した。選挙方法の説明の後、出席評議員の互選による選挙を行い、2回目の投票で過半数の得票があった岩崎学氏を新理事長に選出した。岩崎評議員より受諾の意思表示および挨拶があった。

＜議題5＞学会活動特別委員会、学会組織特別委員会の立ち上げ

北川会長より、資料に基づき学会活動特別委員会、学会組織特別委員会の委員について確認があり、両委員会の発足を承認した。

＜議題6＞学会活動特別委員会、学会組織特別委員会主査の選出

北川会長より、両委員会の主査の選出について、各委員会メンバーの互選で最多得票者を主査とする旨の提案があり了承された。投票の結果、学会活動特別委員会では田村義保評議員が、学会組織特別委員会では矢島美寛評議員が主査に選出された。

＜議題7＞統計教育委員会の立ち上げ

北川会長より、資料に基づき統計教育委員会の評議員委員に関する説明があり、発足を承認した。

＜議題8＞統計教育委員会委員長の選出

評議員委員の互選により委員長を選出するととの統計教育委員会運営規程に基づく投票の結果、渡辺美智子評議員が委員長に選出された。

＜議題9＞その他

●未納会員の取り扱いについて：

北川会長から、見なし退会者については一定の基準のもと新理事会に候補リストを提出してもらい、次回評議員会で承認する方向でご了承いただきたい、と提案があり、承認された。

●2010年度大会について：

北川会長から、当学会の連合大会への参加は、同大会の今後の活動を裏書きする意味でも強く求められるものであり、少なくとも2010年度については、評議員会として参加を決定・承認して頂きたいとの提案があり、承認された。

次回（第2回）評議員会は、11月15日（土）16時より統計数理研究所において開催することが了承された。

[議事録参考資料]

2008・2009年度特別委員会

●学会活動特別委員会

会田雅人、伊藤彰彦、稲葉弘道、今井英幸、岩崎学、菊地進、倉田博史、桑原廣美、西郷浩、佐藤学、杉山高一、田村義保（主査）、富澤貞男、中野純司、濱砂敬郎、藤越康祝、舟岡史雄、水田正弘、安田聖、渡辺美智子

●学会組織特別委員会

牛澤賢二、大林千一、狩野裕、川崎茂、川崎能典、久保川達也、栗木哲、小西貞則、瀬尾隆、高橋一、竹村彰通、田中勝人、椿広計、藤井良宜、森博美、矢島美寛（主査）、山下智志、山本拓、美添泰人、若木宏文

●統計教育委員会（評議員委員）

会田雅人、伊藤彰彦、岩崎学、狩野裕、川崎茂、菊地進、倉田博史、桑原廣美、杉山高一、瀬尾

9. 理事会議事録

2008・2009年度 第1回理事会議事録

日 時：9月27日(土) 12:00～3:00

場 所：統計数理研究所 会議室(2F, 所長室前)

出席者：岩崎学理事長, 谷口正信(会誌編集・欧文), 渡部敏明(会誌編集・和文), 内田雅之(広報・HP), 福地純一郎(広報・会報), 前園宣彦(渉外・海外), 江口真透(渉外・一般), 田村義保(渉外・プロジェクト研究) 稲葉由之(大会・プログラム), 橋本紀子(大会・運営), 橋口博樹(大会・運営), 倉田博史(庶務会計), 山下智志(庶務会計), 各務和彦(庶務会計), 久保田貴文(広報・ウェブ)(以上15名, カッコ内は新理事における役割分担)

旧理事会からの出席者：田中勝人, 川崎能典, 井上潔司

冒頭, 回覧資料により入退会者が承認された。

報告事項：

<議題1>理事長からの報告

岩崎理事長より, 理事会の運営方針が説明され, 評議委員会での決定事項が報告された。

田中前理事長より前評議委員会での報告事項, 2006年・2007年度理事会からの申し送り事項について報告があった。

<議題2>新理事の紹介

各理事の自己紹介が行われた。また, 岩崎理事長より理事以外の各種委員について紹介があった。

<議題3>前理事からの引き継ぎ事項

[欧文誌]

谷口担当理事より, 編集委員の構成を変更したことが報告された。小川賞の選考に関して, 候補者の略歴を日本人編集委員に配布した上で選考を行うことが報告された。

[和文誌]

渡部担当理事より, 2008年3月までは大森前担当理事が編集責任者であること, 編集委員の構成を変更したことが報告された。著作権移譲の手続きを過去にさかのぼって行うことが報告された。また, 校正作業を簡素化するために, Tex入校可能な業者を模索中であることが報告された。

[広報]

福地会報担当理事より, HPの更新を体系的に見直す必要があることが報告された。会報No.137の進行状況が報告された。また, 会報に, 退会者のみでなく入会者の氏名も記載する必要があるという意見があった。

[渉外]

田村担当理事より, 科研費への応募を広く促進するよう, 要請があった。

[大会プログラム]

稲葉担当理事より, 2009年度の連合大会において企画セッションで会長講演と国際セッションを予定していることが報告された。

[大会事務局]

井上前幹事より, 2008年度連合大会の決算報告が行われた。大会の事前申し込みにおいて, カード決済ができないというトラブルが発生したという報告があった。チュートリアル領収書の日付に誤りがあり, 当日あるいは後日対応したとの報告があった。また, 会員の身分確認を行う必要があるとの意見があった。

[庶務会計]

川崎前担当理事より, (1) 2006年4月から事務局がシンフォニカに移転して2年の基本サイクルを完了したこと, (2) 基本サイクルを超える会務があるので注意を要すること, (3) 評議委員会が決定する事項に関しても理事会との連絡を密にする必要があること, (4) 春季集会の企画・運営方法

のあり方に関し今後も検討が必要であること、(5) 広報担当理事・ウェブ担当理事との連携が必要であること、(6) 庶務会計担当理事の仕事のウェイトが変化したこと、が報告された。

＜議題4＞会長選挙について

倉田理事より、資料に基づき会長選挙の手続きについて説明があった。

＜議題5＞研究部会の公募について

倉田理事より、会報に掲載する研究部会新設公募のお知らせの原稿が報告され了承された。

＜議題6＞協賛・後援について

倉田理事より、「人文科学とコンピューターシンポジウム（じんもんこん2008）」の協賛を承認したことが報告された。また、「第6回多重比較法国際会議」の後援を承認したことが報告された。

審議事項：

＜議題1＞76回大会の総括と反省点

橋本理事より、76回大会の総括と反省点について説明があった。また、紙媒体の案内を今年度も会報送付時に同封し、配布することが承認された。

＜議題2＞理事会メーリングリストの範囲や運営方法について

岩崎理事長より、メーリングリストの返信先は発信者のみとすることが提案され、承認された。また、添付ファイルにはパスワードを付けて送信

することが提案され、承認された。適宜、メール理事会を開催することが提案され、承認された。

＜議題3＞春季集会の計画

岩崎理事長より、江口理事および田村理事を担当者として春季集会について取り組んでいくことが提案され、承認された。

＜議題4＞統計関連学会連合の各種委員の選出

岩崎理事長より、資料に基づき統計関連学会連合各種委員が選出され、承認された。

＜議題5＞IMS-APRMでのinvited sessionについて

岩崎理事長より、2009年6月28日～7月1日までソウル大学において1st Institute of Mathematical Statistics --- Asia Pacific Rim Meetingが開催されることが報告され、日本から3つのセッションを立ち上げることが承認された。

＜議題6＞和文誌印刷会社について

岩崎理事長より、印刷会社を変更した方がよいとの提案があった。

＜議題7＞その他

田村理事より、統計関連学会連合から統計数理研究所の倉庫の利用に関する要望書を提出するよう提案があった。

岩崎理事長より、次回理事会を新会長選出後の1月24日12:00～開催することが提案され、承認された。また、学会費未納会員に関して3年以上の未納会員については退会とみなすということが提案され、承認された。

10. 研究集会案内

●統計情報セミナー『CHANGE! 変わる統計とGISの利用環境』

講演内容：「統計改革の方向」竹内 啓（内閣府統計委員会委員長）、「地理空間情報活用推進基本法施行とGIS利用環境の将来」高阪宏行（日本大学文理学部教授：大阪会場）・村山祐司（筑波大学大学院生命環境科学研究科教授：東京会場）、「統計の有効活用に関する展望と課題」

美添泰人（青山学院大学経済学部教授）

日時・場所：

【大阪】2009年2月12日（木）大阪国際会議場12階「1202室」、

【東京】2009年2月19日（木）ホテルフロラシオン青山1階「ふじ」の間

（両会場とも13:30～16:30）

※参加費無料。当財団ホームページ（<http://www>）

sinfonica.or.jp) よりお申し込みください。
締切は2月6日(大阪), 2月13日(東京)です。
お問い合わせ: (財) 統計情報研究開発センター
TEL 03-3234-7471

- 第5回統計教育の方法論ワークショップ
データ活用のための授業モデル
—新学習指導要領のための環境整備と協働型学習
への展開—
日時:平成21年3月7日(土) 12時30分~18時
場所:統計数理研究所講堂
(東京都港区南麻布4-6-7)
主催:日本統計学会統計教育委員会, 日本統計学

会統計教育分科会, 統計数理研究所
共催:全国統計教育研究協議会(申請準備中),
全国統計協会連合会(申請準備中), 数学教育
学会
科研費基盤研究(A)
「データ科学の新領域の開拓—文化財データ解
析—」(代表:村上征勝)
科研費基盤研究(B)
「教育の情報化・国際化に即応した統計教育と
カリキュラムシステムの開発研究」
(代表:渡辺美智子)
後援:日本数学教育学会(申請準備中)

11. 新刊紹介

本会会員からの投稿による新刊図書の紹介記事
を, 原稿の到着順に掲載します。

- 丸山健夫著『ビギナーに役立つ統計学のワンポ
イントレッシン』日科技連出版社, (1995円)
2008年11月

見開き2ページ形式で統計学の重要キーワード
を解説。できるだけ数式を使わず日本語と絵で,
統計用語の意味を解説。教科書に, キーワード事
典に, そして読み物に, 3ウェイに利用できるオ
ールインワンの一冊!

- 石田基広著『Rによるテキストマイニング入門』
森北出版, (2,940円税込) 2008年12月
フリーソフトのRを使って日本語テキストを解

析するための入門書

- 八谷大岳, 杉山将著『強くなるロボティック・
ゲームプレイヤーの作り方~実践で学ぶ強化学習
~』3,780円(税込), 2008年08月28日

本書では, ロボットなどに自律的な学習を行わ
せるための「強化学習」について, 数学的背景か
ら実装, 最新の動向まで幅広く解説しています。

- Quinero-Candela, J., Sugiyama, M., Schwaighofer,
A., & Lawrence, N.D.編 Dataset Shift in Machine
Learning MIT Press, February 2009, \$40.00/£25.95

本書では, 訓練時とテスト時でデータの生成分
布が異なる「データセットシフト」下における
基礎理論, アルゴリズム, 応用例を解説していま
す。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2008年度会費の請求書が会員のお手元に届いて
いることと思います。会費の納入率が下がると学
会会計に大きく影響いたします。速やかな納入に
ご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自

動払込制度もご用意しています。次の要領を参照
の上, こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住

所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
財団法人 統計情報研究開発センター内
日本統計学会係
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

入会者

大野忠士, 宮本道子, 矢野剛, 杉山将 (敬称略)

退会承認

叶雄, 齋藤堯幸, 津田美幸, 真鍋俊彦, 山口光代, 渡部重明 (敬称略)

長期間連絡不能により, 退会したと見なされた者
浅見由美子, 浅村史郎, 芦原永則, イマデアル
チャナ, 李聖鍵, 石井唱子, 石井勝之, 磯川幸直,

井上秀一, 大野洋平, 大原幸多, 大平純彦, 小城
原新, 奥喜正, 片山正, 鎌田真隆, 神原秀彦, 北
野昌志, 金瑛晋, 草薙義一, 久保雅彦, 栗原良平,
小泉純, 越山祥子, 小宮山靖, 佐藤保, 沢田章,
篠原英之介, 芝原信幸, 清水悟, 申漢豊, ジンボ
ヘンリー クラベル, 須田雄一郎, 隅谷孝洋, 滝
良太, 田邊國士, 崔宗煥, 鄭東憲, 都築優一, 鄭
躍軍, 土井徹, 豊田義裕, 長岡省吾, 中島学, 中
村二郎, 野村義明, 湊屋太門, 宮田幸治, 宮本睦
彦, 森本栄一, 山之内直樹, 山来寧志 (敬称略)

現在の会員数 (2008年12月20日)

| | |
|------|--------|
| 名誉会員 | 21名 |
| 正会員 | 1,385名 |
| 学生会員 | 48名 |
| 総計 | 1,454名 |
| 賛助会員 | 18法人 |
| 団体会員 | 4団体 |

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益である
と考えられるものなどについて原稿をお送りく
ださい。以下のような情報も歓迎いたします。

● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人など
をお知らせください。

● 求人案内 (教員公募など)

● 研究集会案内

● 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月を
お知らせください。紹介文を付ける場合は100字
程度までとし, 主観的な表現は避けてください。

できるだけe-mailによる投稿, もしくは, 文書
ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致しま
す。

原稿送付先:

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
学習院大学経済学部
福地純一郎 宛
Tel : 03-5992-2085
Fax : 03-5992-1007
E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用e-mailアドレス)

・統計学会ホームページ URL :

<http://www.jss.gr.jp/>

・統計関連学会ホームページ URL :

<http://www.jfssa.jp/>

・75周年記念事業ホームページ URL :

<http://www.math.chuo-u.ac.jp/~sugiyama/jss75>

・住所変更連絡用e-mailアドレス :

meibo@jss.gr.jp

・広報連絡用e-mailアドレス :

koho@jss.gr.jp

・その他連絡用e-mailアドレス :

shom@jss.gr.jp